

次に、小中学校体育館空調整備についてお伺いします。

昨年7月30日に発生したカムチャツカ半島沖地震では、津波が東北の太平洋沿岸に到達するおそれがあるとして、三陸海岸の住民が避難所に指定されている学校の体育館へ避難している様子がテレビニュースで映し出されました。その際、避難された方が、こんなに暑い時期に蒸し暑い体育館の中で過ごすのは大変なことだと話されていたことが大変印象に残っています。近年は猛暑が常態化しており、教育環境だけでなく、避難所環境の改善は喫緊の課題であると考えます。

そこで、質問ですが、小中学校の体育館は災害時の避難所に指定されていますが、令和8年度に計画されている小中学校の体育館空調設備については、大規模停電を伴う災害時にも稼働可能な仕様となっているのでしょうか。非常用電源の確保や燃料備蓄などを含め、災害対応力についてお示しください。

また、避難された方々が少しでも安心、快適に避難生活を送ることができるよう、どのような住民サービスを想定されているのでしょうか。例えば、携帯電話等の充電環境の確保などはいかがでしょうか。現在、想定している具体的な支援内容についてお伺いします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。竹林教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（竹林栄一）（登壇） 小中学校体育館空調整備についてお答えいたします。

まず、災害対応力についてでございます。

令和8年度に、市内の小中学校体育館に整備する予定の空調設備につきましては、災害等による電源喪失時でも稼働が可能な自立式のGHP、ガス空調を予定しております。各学校にLPガスを貯留するガスバルクを2基設置し、停電時でも、室外機で発電した電力により最大3日間、空調機、照明等が使用可能となっており、非常用電源や燃料備蓄としての機能を確保しております。

次に、避難者への具体的な支援内容につきましては、停電時におきましても、空調や照明が使用可能であることに加え、余剰の発電電力により、コンセントで携帯電話の充電等も可能となりますことから、安心して避難生活を送っていただけるものと考えております。

○議長（田窪秀道） 伊藤優子議員。

○24番（伊藤優子）（登壇） 毎年、夏が大変暑くなってきましたので、早い空調設備の導入に向けて頑張っていたいただきたいと思います。